

四月三日

午後椅子ゼミ。ある程度成果が上ったモノ三名を世田谷村へコンバート、要するに一軍テスト生に昇格する。十五時名古屋から依頼者来室。東洋医学の医院と住宅併用の建築設計を依頼される。良い人のようなので、とり敢えず案を作ってみよう。

久しぶりに海光来室。住宅建築で世田谷村取材したいとの事。新しく進めている住宅ならいいですよと返事。主に技術的な問題をルポルタージュしたいらしい。海光なら仕方ないだろう。杉並、渡辺邸現場は取材の申し込みが多い。ガードしなければ。

GAHOUSEに渡辺邸の模型が出ていて、我ながら若作りだと思ふ。甘い。

十八時三〇分。赤坂で伊東豊雄さんが声を掛けてくれて石井和紘設計の街灯の見学会、及び私の芸術選奨の内々のお祝い会。他に山本理顕、隈研吾、妹島和世、小嶋一浩が集まってくれて食事。久しぶりに建築家達と会った。よいメンバーで流石伊東豊雄である。しかし原木を使った十七基の街灯が全て傾いていて、その角度が三度なんだそうだ。それで三度笠のおちが付いていた。石井和紘らしい。

四月四日

午後大学、春は大学が忙しいので気をつけぬとアタフタしているだけの時間を、充実している、なんて錯覚してしまう。目一杯

の雑務を片付けて夕方世田谷へ。日本デザイン機構の理事会は欠席してしまう。世田谷村地下で打ち合わせ。今現在地下の総数は十九名。丹羽君太田をカウントすると二十一名の世帯である。チヨット多いな。育ちも悪かるうから間引きしてゆこう。

四月五日

昨夜来の強風続く。朝家内と屋上に上り、バジルの苗を植え、色々野菜の手入れする。富士山がクッキリ見えている。

九時半地下へ。

オープンテックハウスの展開プログラム作りに手をつける。一時間チヨットと作りあげて、それぞれのスタッフ、見習いの担当も決めた。午後には指示する。

日経のコラムに大分反応があつて全国から便りをいただく。新入りの院生の仕事振りを見るに、又も恐ろしい位の馬鹿さかげんに仰天絶句。もう投げ出したくなるぜ。小さな自己主張の固まりだなコイツ等は。素材を生かすという一歩からたたき込まねばならん。学部の時は何をしてたんだろう。これでは物は作れない。十九時佐藤健康来地下。共に西調布へ。神だのみでも何でもしてやる。

四月六日

朝、杉並渡辺邸スタジオボイス取材。渡辺さん家族の工事振りを撮影。おじいさんが堂に入った大工振りであった。良い子供達だ。昼前、上九一色村へ。十五時前聖徳寺現場へ。土地造成工事の具合をチェック。考えていたよりも作った凹地が小振りな感じだった。底に降りなかつたので作った凹地がどれ位の内部空間を作れるのか、まだ不明。十六時富士吉田市のトタン建築取材。期

待していなかったが、前田久一さん自作のブリキ建築は良かった。特にブリキの波板で作ったファサードは見事なものだった。この素材が持つ薄い金属特有の乾いたリリズムが生かされていた。でもノスタルジックなんだなあ。五〇年代の匂いがすることも確かである。好ましく思っけていても良いがのめり込んではいけな素材だ。内部は外に比べると数段落ちる。十八時過、外が薄暗くなる、小さな青い電球がポツと点灯して、このBarttonはルネ・マグリットの真昼のたそがれの絵のような、フツとした狂気のような感じを漂わせる。

世田谷村の小さな小屋はトタンで作ってみるか。気持ちがちョツと傾く。用心用心。ナノリウムで中里和人展を見て帰京。二十二時三〇分帰着。

今日は丸一日、疲れた。変な一日だった。

四月七日 日曜日

檜垣が杉並の渡辺邸で、昨日カラスに襲われ、歯を折る事件があつて今日予定していた松崎行は中止。大の男がカラスにやられるとは、気味悪いな。俺も屋上では用心しなくては。イヤな目付きのカラスがいるからね。

久しぶりの休日である。

朝、家内と佐藤健にヨーグルト届ける。渡辺邸構造スタディ。
夜、安藤鈴木と宗柳でソバ。